

令和6年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第9回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024年12月7日（土）9:00～15:30

参加者：3名 学生1名、職員1名、外部1名

（教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林・地獄谷国有林

■第9回 春日山の石仏（滝坂の道・地獄谷）

概要：春日山原始林の南端となる滝坂の道にある石仏群を巡り、自然と人の関わりについて学びます。

09:00 飛鳥中学校正門前集合

09:05 自己紹介、簡単な体操。

09:15 滝坂の道一首切り地蔵－地獄谷園地－地獄谷石窟仏－春日山石窟仏－滝坂の道一首切り地蔵
－春日山遊歩道南部

15:30 春日山遊歩道南入り口にて解散

■概要報告

快晴のなか、滝坂の道から地獄谷等の春日山原始林と周辺の石仏群を巡るフィールドワークとした。滝坂の道から入る春日山原始林は、イロハモミジの紅葉やムクロジの落葉が美しい。紅葉を愛でながらの石仏巡りとなった。天気の良いこともありこの日の石仏がよくみることができた。寝仏（大日如来）をはじめ、石像岩四仏（地蔵、薬師如来、釈迦、阿弥陀）、夕日観音（弥勒仏）滝坂三体地蔵、滝坂地蔵を双眼鏡等を使って、じっくりと観察することができた。首切り地蔵からは、地獄谷園地、国有林に入り、春日山原始林の照葉樹林とスギヒノキの人工林の雰囲気の違いや、双方で起きているニホンジカの食害等の影響についても観察した。

地獄谷石窟仏でも双眼鏡を使って、観察をした。地獄谷石窟仏は滝坂の道の石仏と異なり線刻と彩色が特徴のため、双眼鏡を使って観察すると、複数の石仏のうち、稚拙な様子なども見てとれた。その場で昼食を取り、その後春日山石窟仏へ移動。春日山石窟仏は凝灰岩のため、その他の石仏よりも立体的な作りになっており、独特の雰囲気を感じることができた。その後、滝坂の道を脇道に逸れたところにあり、間近でみることのできる石仏（阿弥陀如来立像）を観察。石仏周辺は掃き清められており、どなたかが清掃していることがわかる。道沿いにある地蔵や石仏は、いずれも掃き清められており、信仰がいまも息づいていることを実感した。

再び首切り地蔵まで戻り、以降は春日山遊歩道を下る。紅葉のピークを少し過ぎたところではあるが、イロハモミジやアカシデなどが赤や黄色に、常緑樹のシイやカシ、スギなどが深い緑で影を作り美しい景観を楽しみながら下山した。

■写真



シカ採食の影響等により地面に植物がない



解説の様子



寝仏（大日如来）



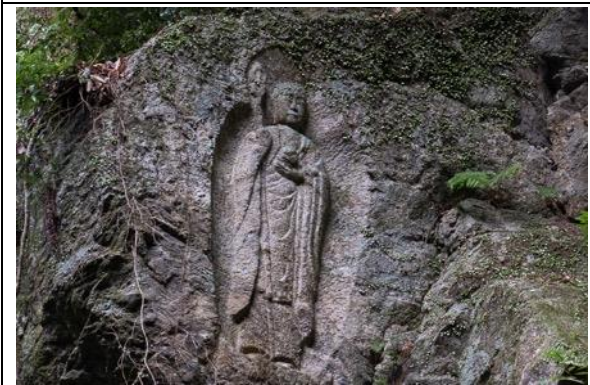
石像岩四仏 4体の石仏が彫られている



夕日観音（弥勒仏）



三体地藏



滝坂地藏



大きなスギに絡まるフジ



朝日観音



ルーペでコケを観察



ルーペで見た様子



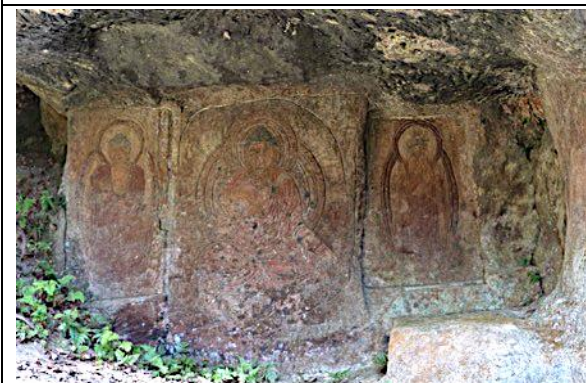
ムチゴケの仲間



首切り地蔵



シカの樹皮剥ぎ被害



地獄谷石窟仏



向かって右側の十一面観音は線が稚拙



春日山石窟仏、双眼鏡を使って観察



春日山石窟仏の西窟の阿弥陀仏像



滝坂の道の脇道にある阿弥陀如来立像



観察の様子



春日山遊歩道の紅葉



イロハモミジの赤と黄色常緑樹の緑



黄色と緑のコントラストが美しい。



黄葉も多く見られ森が明るい。